

名古屋市科学館企画展への錯覚装置の展示

代表者	芸術工学研究科 准教授 小鷹研理
連絡先	kenri@sda.nagoya-cu.ac.jp
連携・協力	名古屋市科学館
ポイント	研究室で行っている実験を一般の方にも体験していただきました

1 概要

- 平成29年9月16日（土）から24日（日）まで開催された名古屋市科学館企画展「さわってビックリ！見てフシギ？人間の皮膚」にて、錯覚装置を展示しました。

2 活動内容

- 研究室がこれまでに扱ってきた影や鏡を使った「からだの錯覚」の体感装置を多数展示するとともに、説明のための画像パネルを複数設置し、錯覚の原理をわかりやすく説明しました。

【展示内容】

- ・ 軟体生物ハンド
自分の手がぐにやぐにやとなるような感覚が生まれる実験
- ・ すのてすのあし、あべこべ実験
左右の触覚を混同したり、机の表面を自分の手の表面と錯覚する実験など
- ・ 影に引き寄せられる手
自分の手が手の影の位置に引き寄せられることを体感できる装置
- ・ 鏡に折り返される手
鏡像を鏡に隠れた手と混同することで、様々な位置や触感のずれを体感できる実験

3 成果

- ・ 2週間以上にわたった展示は、多くの来場者に恵まれ、初めて体感する錯覚に対して、驚きの声の飛び交う賑やかな展示空間となりました。
- ・ 各参加者の錯覚の感度を年齢毎に大きなパネルにプロットしてもらうことで、期間を通して、数百人の錯覚分布の年齢傾向が徐々に完成していくという視覚化の試みも行い、研究的な視点でも重要な機会となりました。



体感装置



展示の様子